

1 学校教育目標

21世紀に生きる、心身ともに健康で、思考力・判断力・行動力があり、自立し共生しようとする心情あふれた児童を育成するため、人間尊重の精神に基づき次の教育目標を設定する。 ○やさしい子 ○考える子 ○元気な子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・笑顔のある学校⇒夢や希望、笑顔での挨拶、お互いを思い合い感謝できる ・あたりまえのことを大切にできる学校⇒返事、学習規律、ルールとマナー ・互いのよさを学び合い、教師間協働ができる学校⇒協働意識による学年全体の向上、学校運営参画意識の高揚 ・地域・家庭に信頼される学校⇒生命の尊重、安全で衛生的な教育環境
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・やさしい子⇒思いやりの心で自他の存在を尊重し、互いの関わりの中で高め合える子 ・考える子⇒基礎・基本を身に付け、見通しと振り返りによって自らの学びを進められる子 ・元気な子⇒すすんで心身を鍛え、健康と安全について考えながら生活できる子
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・情熱と使命感をもって、常に子供を中心に据えた指導を展開する教師 ・子供の目線や立場に立ち、その子供の良さを引き出し、子供の自己肯定感を高める教師 ・社会や時代の要請を敏感に捉え、自己啓発に前向きな教師 ・教師間協働により、学校経営参画意識をもち学び育て合う教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

○【児童一人一人の基礎・基本の学力の確実な定着】「児童一人一人の基礎・基本の学力の確実な定着」を目指して、学力向上プランに基づいて取り組んできたが、目標達成には0.5%及ばなかった。前年度は学力ポートフォリオを活用した研究授業と研修会の成果を日常化させるべく、全教員で検討・確認・共有を行う学力夕会を新たな取組として設けた。授業改善への意識向上に努めることはできたが、さらに日常の授業準備や教材研究に具体的に色濃く反映させ、単元ごとの短いスパンでの学力向上を図っていく必要がある。漢字の読み書きや語彙の修得、朝読書、四則の計算練習など基礎基本の徹底に加え、教員の学力向上に向けての主体的な取組の成果と課題を検証し、学年や学級間格差という課題改善に向けて組織的に取り組んでいく。

○【人権尊重】と「思いやりの心」の育成を通したいじめ防止】全学年児童による本校の特色である「あいさつ活動」、年間を通じて展開している「言葉づかい重点週間」は、児童が集団生活や他者への意識を振り返り、それを高めるための有効な機会となった。一方で「いつでも、どこでも、誰にでも」といった定着の部分に関してはさらに継続して取り組んでいく必要がある。児童の学校生活の母集団となる学級の望ましい成長は、いじめの未然防止や授業での学力獲得の土台となっていくものであることから、引き続き年間2回実施するQ U調査の結果には特に注視していく。いじめの防止や個別に支援を要する児童の実態把握も含めて、児童カルテなど組織的な情報共有の仕組みをさらに充実させていく。

○【児童一人一人の体力の向上】一昨年そして昨年と体力状況調査の結果において全国平均値を上回る種目は全学年で減少している。特に低学年ではコロナ禍の影響もあって大幅に減少した。今年度は児童の実態に基づき各学年の不得意種目を明確にしながら、その克服に向けて計画的な体力向上の取組を施していくとともに、この状況を保護者とも共有して学校と家庭の両方向から体力の向上を目指していく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	「人権尊重」と「思いやりの心」の育成を通したいじめ防止	○	○	○	○	○
3	運動に親しみ体力の向上	○	○	○	○	○

5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン				
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題		達成度 ◎○△●
児童一人一人の基礎・基本の学力の確実な定着		4月 区調査目標通過率 80% 年度末到達度診断通過率 80%		自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み						
新・ 継	アクション プラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)
1 継続	日常的な 指導方法の 改善 学力ポート フォリオの 活用	全学年 国語 算数	進捗 確認 毎月 研修 12月	○担任・専科・管理職 単元末テストに向けてつま ずきを出さない指導検討・授 業改善に努め、結果に応じた 補充学習を行い短期間での つまずき改善を行う。	実施ごとに 結果を報告	単元ごとに 正答率 85%以上
2 継続	PUタイム (朝学習)	全学年 国語 算数	毎週 火木金 朝 15分	○担任、学習支援員 音読、読書、読み取り、漢 字、AIドリル、東京BD	到達度診断 正答率 実施ごとに 結果を報告	正答率 80%以上

3 継続	学校図書館 の活用	全学年 国語	①年間 朝読書 ②年間 の貸出 期間中	○児童 ①目標達成者を表彰。 強化旬間を年2回実施。 ②読書旬間に図書委員会と 連携し、味見読書など本に興 味をもたせる活動を行う。	読書記録カー ドに記録 貸出冊数記録	①月2冊 年24冊読書 ②児童一人当た りの貸出冊数 を20冊以上
4 継続	I C T機器 の活用	対象学年 全教科	①週3回 以上 ②週3回 以上 ③半期1 回以上	○教員 ①児童が児童用タブレット 端末を用いる授業を実施。 ②対象学年児童にA Iドリ ルによる個別学習を実施。 ③プログラミング教育実施。	週の学習計画 教員の申告	・実施した教員 の割合各90% 以上
5 継続	学力夕会	全学年 国語 算数	毎月 最終 月曜日	○教員 各学年からの学力向上に向 けた取組やその成果と課題 を日常的に情報共有し、学習 内容の系統性も意識しながら 授業改善を図っていく。	月行事予定表 ・週案に明記	年間10回実施
6 新規	P. S. Meeting	全学年 国語 算数 学級経営	各学年 毎月 1回 程度	○教員 各学年の主体的な学力向上 の取組の状況・成果と課題に ついて管理職と検証しながら 適宜改善を図っていく。	月行事予定表 ・週案に明記	各学年 年間10回実施
7 新規	安心感ある 授業づくり	4～6年 学習指導	4月 12月	○教員 質問紙調査にある学習指導 の工夫6項目について初期 状態からの改善を図る。	質問紙調査 結果の比較	肯定的回答 割合の増加

自己評価の際に記入

重点的な取組事項－2	「人権尊重」と「思いやりの心」の育成を通したいじめ防止			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度

友達に対して、いつでも優しい言葉かけができる。	言葉遣いアンケート「強い言い方や冷たい言い方にならないよう気を付けている」の児童の割合が90%以上。	自己評価の際に記入
-------------------------	--	------------------

B 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
心の教育を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> 各々の違いが分かり、認め、生かしていける態度が身に付く。 QUでの学校生活満足群に属する児童が増える。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止対策の一環として、道徳授業を充実させる。 お互いの良さを認め合える学級活動を充実させる。 縦割り班活動での遊びや異学年との交流活動を行う。 	自己評価の際に記入		
挨拶・言葉遣いの意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> すすんで挨拶ができる。 場に合った言葉に気を付けて遣い分けができる。 敬称をつけて名前を呼ぶことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導の進捗を確認しながら教員の意識を高め、より良い方法を工夫させる。 児童の挨拶運動を拡張する取り組みを企画・計画させる。 	自己評価の際に記入		
特別活動を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価で肯定的に評価できる。 努力している自分を認めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の活躍の機会を増やし、自己肯定感・自己有用感を高める。 めあてをもって行事に取り組み、自己の取組について過程や結果を振り返らせる。 	自己評価の際に記入		

重点的な取組事項－3		健康な体づくりと体力向上			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	

<p>すすんで運動しようとする態度を育てる。</p>	<p>体力状況調査結果で都平均を下回る種目数を削減する。特に課題である上体起こし・立ち幅跳び・シャトルランについては体力向上委員会で具体的な策を検討していく。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自己評価の際に記入</div>
----------------------------	---	--

B 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
<p>体育授業の充実</p>	<p>・昨年度体力状況調査結果で全国平均を下回った種目を1種目減らす。</p>	<p>・めあてをもって体育の学習に取り組み、自己評価しながら運動を工夫するための「体育学習ノート」の実施率を向上させる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; display: inline-block;">自己評価の際に記入</div>		
<p>体力向上のための行事の充実</p>	<p>休み時間に校庭に出て運動に取り組む児童の数を増やす。</p>	<p>・年間を通して運動が継続できるように体育的行事の内容や方法を改善するとともに、児童の主体的な活動場を増やすよう工夫していく。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; display: inline-block;">自己評価の際に記入</div>		
<p>運動に向かう環境づくり</p>	<p>運動する場に参加する児童数を増やす</p>	<p>・休み時間の中で友達と一緒に楽しく遊びながら体づくりができる学級あそびを企画して、その機会を増やしていく。</p>			

6 まとめ



—